

タウンニュース

株式会社タウンニュース社 ☎0465-35-3980(代) FAX0465-30-1290 箱根・湯河原・真鶴編集室・〒250-0042小田原市伏産306 <http://www.townnews.co.jp>

発行責任者/宇野 浩一 編集長/多岐 公成
詳しくはホームページ

おきげ 検索



職人なった

パブリックアート

3人の地元っ子

落とした。モチーフは「竹」。米山健一さん(41・写真中央)は湯河原高校時代に両親から油彩セットを与えられたのがきっかけで、絵画やデザインの世界を志すようになった。この地でアトに携わり続けて20年。焼成前の陶板を手にしみじみと語った。「自分の寿命より長く、半永久的に作品は残る。そう考えると作っていて緊張しますし、怖いですよ」。

「パブリックアート」とは病院や駅といった公共施設に設置される芸術作品のこと。ステンドグラスや長さ10メートルほどの陶板レリーフを、地元足柄下郡出身の「職人」たちが手掛けている工房があるという。熱海市泉地区の「クレアール熱海ゆがわら工房」は森やせせらぎの音の中に佇んでいた。山木育人さん(47歳・写真左)は真鶴中学校出身。当時から絵を描いては県のコンクールで入賞するなどデザイナーの才能を育んだ。「当時の美術の先生に作品を褒められて、その気になった」。工房に入り、職人として手掛けた作品の一つはJR東静岡駅などに展示された。作品(写真左)のモチーフはアンモナイト。青いガラスを好んで使うのは「青い海に囲まれて育ったせいかな」。

旧箱根明星中学校出身の津原岳男さん(27・写真右)は学生時代からなぜか塗装が得意だった。ヘルメットやバイク、携帯電話までカラフルに塗り、周囲を驚かせたという。高校卒業後に工房入りし、現在に至る。「建築になじむ作品が作りたい」と、手にしたステンドグラスが、青い光を床に

2010年9月11日